

日本災害情報学会 第 18 回学会大会に参加しました(2016/10/22-23)

テーマ：災害情報

場所：日本大学文理学部（東京都世田谷区）

10月22日(土)～23日(日)の2日間、日本大学文理学部において、日本災害情報学会第18回学会大会（主催：日本災害情報学会）が開催されました。日本災害情報学会は「災害情報」をキーワードに、防災・減災に役立つ災害情報や、その伝達・受容のあり方などを調査・研究する学会です。当研究所からは、佐藤翔助教（情報管理・社会連携部門）が口頭発表とポスター発表を、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）がポスター発表を行いました。各発表者の講演題目等は次の通りです。

【口頭発表】

佐藤翔輔、森口周二、有働恵子、今村文彦ら：ウェブからリアルタイムで収集できる大雨情報とその限界に関する事例分析 —2015年台風17・18号における宮城県内の場合—

【ポスター発表】

佐藤翔輔、今村文彦ら：震災伝承を行うフィールド型デバイスのユーザー評価とその比較分析 —東日本大震災における石巻・東松島・名取の事例—

寅屋敷哲也、サッパシーアナワット、久利美和ら：2014年秋以降の蔵王山の火山活動に伴う事業所の経済的影響と行政による観光支援に関する調査

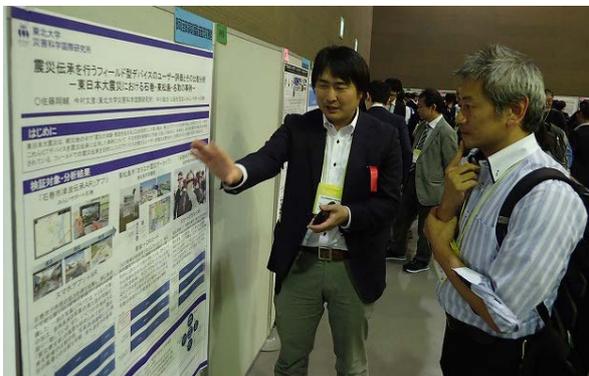
※著者名は、筆頭者と研究所構成員のみ記載、下線は研究所構成員



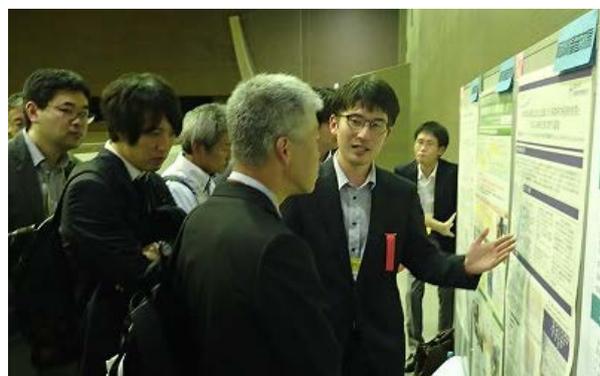
口頭発表（佐藤助教）



口頭発表会場の様子



ポスター発表（佐藤助教）



ポスター発表（寅屋敷助教）

文責：寅屋敷哲也（人間・社会対応研究部門）